



10月22日 合同研修ガイドボランティア活動
in 朝倉市・東峰村

(視覚障害者の会・聴覚障害者福祉部会・筑前手話の会)



朝倉市黒川にある音楽館
昭和レトロを体験



朝倉市の山田堰にある、
故 中村 哲さんの石碑前



フジのはちみつ店内
甘〜いはちみつソフトクリームを試食



1年ぶりのバスに乗っての
研修に心ウキウキ♪

人とつながるボランティア活動をやってみませんか♪

特集 コロナ禍でのボランティア活動 & 思い



4 回目の緊急事態宣言が9月末で解除になり、日常の生活を徐々に取り戻しつつあります。

ボランティア活動も少しずつ動き出しました。4月から9月までに、2回の緊急事態宣言があり、活動の休止や自粛が続きました。その中でも活動が続いている姿や、新たな活動に取り組む姿があり、活動の灯は消えることはありませんでした。

今回は、4月からの活動を振り返り、さまざまな思いからボランティアさんが活動に取り組む様子や気持ちを紹介します。コロナ禍の状況は続きますが、「できる人が できるときにできることを」の気持ちで、町内の活動が少しずつ広がっていくことを願い、これからもボランティアセンターは、地域とボランティアのみなさんをサポートしていきます。

Part 1

子どもたちと触れ合う活動

個人 ボランティアの登録をした高校生の陶山向日葵さんは、将来子どもに関わる進路に進みたいという思いがあり、「夏休みを利用して、子どもたちと触れ合うボランティア活動をした」と相談を受けました。その頃は、コロナウイルス感染が拡大し、対面で子どもたちと触れ合う活動が難しい状況でした。センターは、子どもに関係する施設に連絡をとり、間接的に子どもたちとつながる活動を陶山さんに提案し

高校生ボランティア 陶山 向日葵さん

ありがとうございます。
夏祭りでたくさん提灯を使っていただき、みんなの笑顔が本当に嬉しいです！
また、できる時に色々なことをやってみたいです。



ました。その中で、陶山さんが考えた作品が、折り紙の「提灯」です。「コロナ禍でも、夏祭りの雰囲気を楽しんでほしい。」という気持ちを込めて作成し、施設へ贈りました。受け取った施設からは、「夏祭りで陶山さんが作った提灯を飾って盛り上がり、子どもたちが大変喜んでいました。」というお礼の手紙と写真が後日届きました。対面で触れ合う活動が難しい中、できることを考え、新たなボランティア活動につながり、お互いが笑顔になりました。



Part 2

お互いが笑顔になる活動

「地域ボランティア美和の会」の代表・吉森千鶴子さんは、コロナ禍で活動が思うようにできないことに気持ちが沈んでいました。「今だからこそ、子どもたちの笑顔につながる活動がしたい。」と話し合い、桃太郎をテーマに「はり絵」を作成し、施設に贈ることになりました。6月発行の「センターだより」で折り紙の募集をしたところ、地域の人から折り紙をたくさんいただき、カラフルな「はり絵」が完成しました。活動中は、会員同士で、「どの色にしたら子どもたちはもっと喜ぶかな。」と笑顔で話しながら、「はり絵」作りに取り組んでいました。10月中旬に完成して施設へ贈り、施設から大変喜んでいただきました。

美和の会 代表 吉森 千鶴子さん

子どもたちが、「はり絵」を見て、触って、喜んでもらえると私たちはうれしいです。みんなで協力して出来上がった作品を見て達成感と、「次に何を作ろうかなあ〜。」とワクワクした気持ちになっています。



ボランティア団体の「野いちごの会」は、手芸の特技を活かした手作り作品を通じて、地域とつながり、手作りの温かさを伝える活動を続けています。

今回、社会福祉協議会が実施の「一人暮らし高齢者のつどい」で、町の特産物と手作りマスクを贈ることになり、「野いちごの会」にマスクの作成をお願いしました。9月から準備・作成に取り掛かりましたが、緊急事態宣言が延長になり、限られた期間での活動になりました。「野いちごの会」のみなさんは、「地域の高齢者の方に喜んでもらえるとうれしい。」という気持ちで一生懸命に作ってくれました。後日、素敵なマスク250枚を社会福祉協議会の川上会長に手渡されました。

野いちごの会 代表 砥板 順子さん

人が集まることが難しい今、「人とのつながり」がとても大切だと感じています。緊急事態宣言中は、ボランティア活動が休止になり、毎週会っていた仲間に会えず寂しい気持ちになっていました。今回マスク作りの依頼から活動を徐々に再開し、限られた人数・時間でしたが、徐々に会のチームワークが一気に盛り上がりました。

出来上がったマスクをお渡ししたときは、ひと段落した際の疲労感と、達成感がありました。マスクを通して私たちとの「つながり」を感じてもらえると嬉しいです。



Part 4

ボランティア活動への思い

個人ボランティア みずしま やすお 水島 康生さん



「人のために灯をともしれば、自分の前も明るくなる。」学生時代にこの言葉に出会い、全身に衝撃が走ったのを覚えています。「世のため人のために」が口ぐせだった父親の背中を見ながら育った私の身体の中には“ボランティア精神”が自然に備わっていたのでしょう。熊本地震や九州北部豪雨では、仕事が休みの日には現地に赴き、災害ボランティアとして活動しました。朝倉・杷木での公的な活動が落ち着いた頃、地元でも支援が必要な人がいるのではとボランティアセンターに個人登録をしました。仕事をしながらですのあまり多くはありませんが、活動の依頼があれば可能な限り携わらせていただいています。

コロナ禍で、活動の場が一気になりましたが、支援が必要な人がいなくなった訳ではありません。こんな時だからこそ、助けを求めている人は大勢いるはず。それをサーチライトの様にくまなく照らして、手を差し伸べられるのも私たち草の根のボランティアの役割であり、強みではないかと思います。大きなことはできないかもしれませんが、目の前で困っている人がいれば、そっと寄り添って声をかけてみる、思いやりの心が町中にあふれていったら、きっと住みやすい平和な世の中になっていくのではないのでしょうか。

「気軽にできる！ちりめんde小物づくり講座」報告

日時 10月15日(金) 10時～12時
受講者 10人
講師 ボランティア団体「野いちごの会」

趣味がボランティア活動につながることを目的に講座を実施しました。受講したみなさんは、日ごろから手作りに興味や関心がある人が多く、講師の説明を聞きながら、集中して作品を作っていました。コロナ禍で外出制限が長期間あり、久しぶりに人と触れ合い、学ぶ機会を楽しんでいる様子でした。「野いちごの会」のみなさんは、「コロナ禍で以前のように自由に出外できませんが、興味や関心があれば外出して、歩くと心臓が強くなり、指先を動かすと脳が活性するので、率先して何かをやってみましょう」とボランティア活動のすばらしさを話していました。



受講者の声

- ★出かけることがなかなかできなかったの、楽しくできてステキな「ちりめん小物」を作ることができました。
- ★みんな和気あいあいでした。教えてくださる方もとても丁寧で良かったです。
- ★小さな手先の作業を、指をふるわせながら頑張りました。



「大人ののための手話体験講座(全6回講座)」報告

日時 10月6日～11月17日(毎週水曜)
受講者 8人
講師 聴覚障害者福祉部会・筑前手話の会

聴覚障がい者の理解と、手話の基本的な日常会話を学ぶ講座を実施しました。受講者は、毎年継続して学ぶ人や、初めて手話を学ぶ人などさまざまでしたが、毎回講師や受講生同士で覚えた手話を使って、楽しく会話をしていました。



受講者の声

- ★手話を知り、楽しく学べてとても勉強になりました。
- ★手話を楽しく学べ、あいさつや住所、誕生日など手話で伝えることができるようになりました。

筑前町ボランティアセンター

〒838-0215 福岡県朝倉郡筑前町篠隈 373
 コスモスプラザ福祉館(筑前町社会福祉協議会内)

TEL:0946-42-4555 FAX:0946-42-5941

(ボランティアコーディネーター 林)

ホームページ <http://www.chikuzen-shakyo.or.jp/vc/>
 メールアドレス chikuzenshakyo@tea.ocn.ne.jp

発行編集/社会福祉法人 筑前町社会福祉協議会

